

# 小学校における武道(柔道)授業の継続に関する一考察 —6年目の取り組みを対象にして—

発表者 野々上 綾  
指導教員 尾形 敬史

キーワード：岡田小学校、武道研究授業、柔道

## 1. 緒言

常総市立岡田小学校では、文部科学省指定研究「子供の体力向上」「学校体育の充実」における「武道指導実践事業」を2006(平成18)年度から2008(平成20)年度までの3年間実施した。2009(平成22)年度からは岡田小学校独自の取り組みとして「体育科武道授業」を行っている。

本研究は2011(平成23)年度の体育科武道授業にGT(ゲストティーチャー)として参加し、以下の仮説をもとに、過去5年間の実績にどのような成果を加えることができるかを調査し、小学校体育科におけるよりよい柔道授業実践のための資料を得ることを目的としている。

[仮説1] 発達段階に応じた柔道の指導をすることで、柔道の楽しさやおもしろさを味わい、武道に興味をもつ児童を育てることができる。

[仮説2] 柔道の基本である受け身や体さばきを習得することで、児童の学校生活の中でのケガ防止に繋げることができる。

## 2. 研究方法

### 2-1 対象

常総市立岡田小学校において平成23年10月18日～11月22日まで行われた全ての「体育科武道(柔道)授業」。人数、時間数は以下の通り。

学年	クラス数	人数	時間数
1	3	75	5時間(45分×5時間)
2	2	74	5時間(45分×5時間)
3	3	85	6時間(45分×4時間、90分×1時間)
4	3	85	6時間(90分×3時間)
5	2	72	8時間(90分×4時間)
6	2	77	8時間(90分×4時間)

また、岡田小全児童471名、児童保護者、担任教員15名、石下西中学校1年生134名に対し、柔道授業に対する意識のアンケート調査を行った。

### 2-2 研究方法

#### 1) アンケート

岡田小児童事前・事後アンケート、岡田小教員アンケート、岡田小児童保護者アンケート、石下西中1年生アンケートの5種類のアンケートを、担任教員を通じて配布・回収を行った。質問項目は、4～8項目の選択式または自由記述式で行った。全体の傾向を探るため、項目別に単純集計を行った。

#### 2) ケガについて

平成18年度から22年度まで、過去5年間のケガの発生率・部位について年度ごとに集計した。また、他校との比較調査も行った。

#### 3) 体力の推移

過去6年間の体力テストの結果を用いて、柔道

授業開始後の体力の移り変わりを比較検討した。

## 3. 結果と考察

### 3-1 授業への取り組み

#### 1) 研修会

今年度の武道(柔道)授業をより安全で、楽しい授業にするために、岡田小担任教員を対象とし、平成23年8月10日、岡田小体育館において、柔道授業の実技指導研修会が行われた。

#### 2) 授業

柔道衣は、平成18年度の研究初年度に教材として用意されたものを使用した。

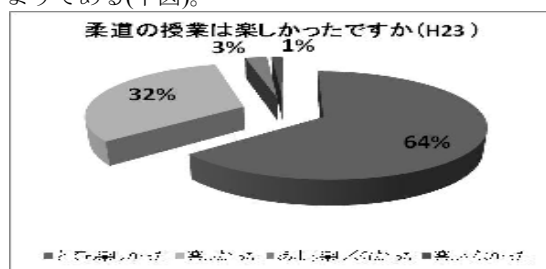
昨年度まで使用していた、岡田小と隣接する石下西中の柔道場は、東日本大震災で損傷し、今年度は使用できなかったため、最初は校内の体育館、後に多目的教室に畳を敷き、授業を行った。

授業は、学級担任が中心となり、作成された「6年間の学習計画」を基にして、GTが協力し、授業を行った。

### 3-2 アンケート結果

#### 1) 児童アンケート

授業後アンケートの「柔道の授業は楽しかったですか」という質問に対して、「とても楽しかった」「楽しかった」と回答した児童数は、平成19年度では全体の85%であったが、20年度85%、21年度95%、22年度95%、本年度は96%となった。多くの児童が楽しく授業に取り組むことができたようである(下図)。



事前アンケート「楽しみなことは何ですか」の質問に対しては、「うごき(クマ・カエル・クモ)」の回答数が1番多かった。

「不安なこと・やりたくないことは何ですか」の質問に対しては、全学年を通して「投げ技」「試合」の回答数が多い。自分に投げ技ができるだろうか、ケガをするのではないかという不安を感じているためと思われる。しかし実際に授業の中では、GTによる個別指導、受けと取りを決めた練習・試合を行い、安全に行うことができた。

事後アンケートの「柔道授業で楽しかったことは何ですか」の質問に対しては、各学年で新しく学習した内容の回答数が多く、柔道に対する意欲・感心が高く、積極的に学習出来た結果であると思われる。

#### 2) 教員アンケート

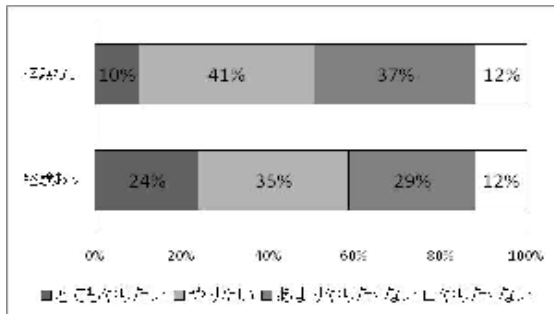
岡田小担任教員 15 名(うち 2 名無回答)にアンケートを行った。「柔道の授業を行うことに対してどう思いますか」の質問に対し、「大変良いと思う」の回答率が 23%、「良いと思う」は 77%であり、全ての担任教員が柔道授業に対して肯定的意識を持っていることが分かった。礼儀作法や、全身をつかう動きなどの柔道ならではの良い点を評価しているが、柔道指導の経験が無く、不安を感じている先生も多い。今後も研修会の内容を充実させていくなどの対策が必要である。

### 3) 保護者アンケート

「柔道授業に対してどう思いますか」の質問に対して、「大変良いと思う」「良いと思う」の回答率は 94.1%であり、昨年度の 94.2%と比べ、大きな変化はなく、多くの保護者が柔道授業に対し肯定的意見を持っていることがわかった。「なぜ良いと思いますか」の質問の回答では、「礼儀作法」「日本の伝統文化」「心身を鍛える」の選択率が高く、柔道の教育的効果に期待している保護者が多いことが分かった。

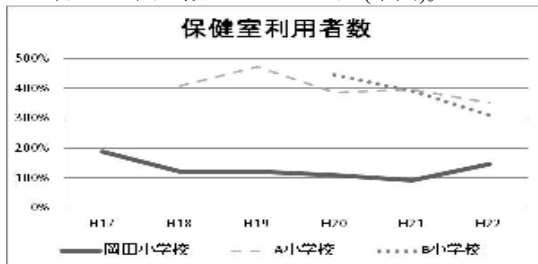
### 4) 石下西中生徒アンケート

「中学校の柔道の授業についてどう思いますか」の質問に対し、「とてもやりたい」の回答率は、小学校での柔道授業の経験のない生徒は 10%に対して経験のある生徒は 24%と倍以上の差が見られた。経験ありの生徒は、経験無しとの生徒に比べ、中学校の柔道授業に対する意識がやや高いことがわかった。



3-3 ケガの比較

ケガの保健室年間利用者数は、「保健室利用者数(ケガ)÷児童数」で値を求めた。岡田小は、柔道授業が始まった平成 18 年度から減少し、低い値を維持している。21 年度の 91.4%に比べ、22 年度は 146.0%と増加しているものの、17 年度の 187.4%と比べると、年間来室数が児童 1 人当たり約 2 回から約 1.5 回に減ったといえる(下図)。

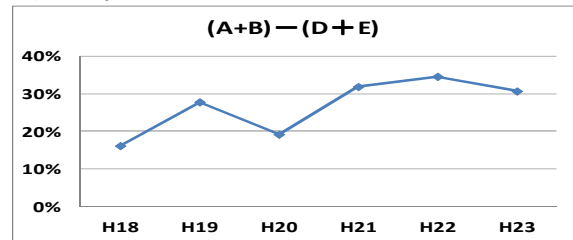


3-4 体力の移り変わり

体力テストの評価  $A \cdot B \cdot C \cdot D \cdot E$  を、【A+B】、【D+E】、【(A+B)-(D+E)】の 3 つに分けて比較した。【A+B】が増加し、【D+E】が減少することで、【(A+B)-(D+E)】の数値が高くなれば、体力

が向上したものとす。

(A+B)-(D+E)の値は、柔道授業が始まった 18 年度の 16.2%以降、増加傾向で、22 年度は 34.7%、23 年度は 30.7%と推移している(下図)。やや減少はしているが、6 年間全体で見ると、増加傾向にあると言える。



## 4. まとめ

### 【仮説 1】について

発達段階に応じて作成してある学習計画に沿って授業を行うことで、児童は柔道の楽しさ、おもしろさに気づき、礼儀作法を意識して学習することができ、武道に興味を持つ児童を育てることができていると言える。

課題として、今後も柔道授業をよりよく継続していくため、研修会のさらなる充実・継続とともに、GT を確実に確保する環境・体制整備が必要である。

### 【仮説 2】について

部位別のケガ発生率は、授業開始前の平成 17 年度は 18.9%、開始後の 18 年度 4.2%、19 年度 3.3%、20 年度 5.9%、21 年度 3.6%、22 年度 3.5%と、低い値を維持している(下図)。

柔道の受け身や体さばきの習得により、顔の負傷の減少に繋がったと考えられる。

課題として、授業の中で、今までと同様、受け身などの基礎をきちんと指導し、ケガをしない柔道授業を行っていく必要がある。



## 5. 文献

- 尾形敬史・常総市立岡田小学校(2009)：小学校における体育授業への柔道導入の実践的研究. 講道館柔道科学研究会紀要第 12 輯：147-170
- 葛野優維(2010)：小学校における武道(柔道)授業の継続に関する一考察. 茨城大学平成 22 年度卒業論文
- サントスミドリ(2009)：小学校における武道(柔道)指導の継続に関する一考察. 茨城大学平成 21 年度卒業論文
- 小野村俊哉(2008)：小学校における武道指導実践事業について. 茨城大学平成 20 年度卒業論文